

『博物館』の意見の整理・分類

グループヒアリングでいただいたご意見を、
集約&分類を行い、分類した意見について
内容を要約・整理いたしました。

なお、どのグループからのご意見かについ
ては、グループカテゴリー凡例のとおりです。

【グループカテゴリー 凡例】

1部：一般公募グループ

2部：施設利用者グループ

(博物館利用者・他施設利用者)

3部：若者議会グループ

4部：中学・高校・大学生グループ

○利用実態や広報について

博物館とはどのような施設で、どんな展示や催事があるのか、まったく知られていない。
ホームページやPR媒体など工夫して、まずは知ってもらうための検討・対策をすべき
である。

一般公募、利用者、利用者、若者議会、中高大生

- ・まずは博物館のことを皆に知ってもらうことが重要。その手法について考えていく必要がある。
- ・博物館で何が学べるか明確に提示する。どんな展示があるかみんな知らない。
- ・いろいろな媒体をつかい情報発信する。知られていない催事も結構あってもつたいない。
- ・どんな展示があるのかあまり知らない。蒲郡にしかないような個性ある施設にしたい。
- ・何をやっているか情報が入ってこない。情報提供の方法が大切。紙を配っても見ない。
- ・駅のコンコースに体験スペースを設けてPRする。
- ・博物館ホームページでは展示内容が分かりにくい。(豊田市の郷土資料館 HP はトップページに展示物の鑑があり展示内容が分かりやすい。)
- ・展示が古く、若者には魅力が感じられない。来訪者が少ないのが問題。
- ・常設展を魅力あるものにして、家族で行きたくなる機会をつくっていく。
- ・歴史にあまり関心なく、写真撮影の背景として利用している。郷土資料も見たことがない。
- ・そもそも、博物館に普段どんな展示があるか知られていない。

「蒲郡っ子作品展」「のびる子作品展」等の学校展示会で訪れる市民が多いのではない
か。このような利用機会で、博物館の展示を見もらうための仕組みや展示内容の
検討をすべきではないか。

一般公募、中高大生

- ・中学生が博物館に行くのは「蒲郡っ子作品展」が開催されている時である。そのように、
色々な作品を展示することによって博物館に訪れる人が多くなると思うし、展示を見る人
も増えると思う。
- ・「蒲郡っ子作品展」「のびる子作品展」があるが、こういった参加イベントがあるときには利
用される。家族で利用されるときに、いかに常設展を見もらうかが大事。常設展を魅力あ
るものにして、家族で行きたくなる機会をつくとよい。
- ・これまで「蒲郡っ子作品展」でしか博物館に行くことがなかった。そのときは、作品を見る
だけで、博物館の展示は見たことがなかった。普段は博物館のことを誰かから聞くこともな

いので、知らない人が多いと思う。だから、何が体験できればいいというのは実は思いつかない。

- ・博物館は学校で制作した作品の展示でしか関わらない。

○「施設の立地や空間、設備」などに関する、利用向上のための方策

場所が分かりにくく、また外観は暗く、重たい雰囲気が入りにくい。看板や案内を整備するとともに、花壇や絵などで雰囲気を明るく・オープンにするべきである。

一般公募、若者議会、中高大生

- ・場所が分かりにくく、車の入口も分からず目立つ案内看板が必要。
- ・そもそも場所がわかりにくく、市民会館の一部かと思った。
- ・どんな施設かひと目見ただけでは分かりづらく、入りにくい雰囲気。
- ・駐車場から入口まで草だらけだった。花壇などもっと「ウェルカム感」を出したい。
- ・外壁がすごく暗く、汚くなっている。子どもの絵を外壁に描くなどした方がよい。
- ・雰囲気が暗く重たい。子どもも楽しめるやわらかい雰囲気にした方がよい。
- ・小さいころ雰囲気が怖いと感じた。もうちょっと明るいといい。
- ・建物の内装をアートのりにリフォームしてSNS等で発信する。
- ・海に近いと言う立地特性をもっと生かして、外に開けた空間にする。
- ・小さい庭園を造り、その中に地元温泉の足湯を設置する。雰囲気も柔らかくなる。

利用しやすくするために、ワークショップができるオープンスペース、またそれに伴う電源やWi-Fiなどネット環境、プロジェクター貸出などの新しい設備機能を充実させてほしい。

一般公募、中高大生

- ・利用しやすくするため、ワークショップができる場所が欲しい。Google オフィスのようなオープンスペース。
- ・電源コンセント、Wi-Fiなどネット環境や、プロジェクターの貸出などがほしい。
- ・展示の説明文字が小さくて読めないのが大きい。

疑似空間体験（VR）や携帯アプリ等を活用することで、展示解説や映像展示などを行い、より理解を深める。

中高大生

- ・疑似空間体験 VRとか動画を使って、体験型にする。昔の暮らしをVRで再現する。
- ・携帯アプリを使い蒲郡クイズを出題し、展示をみて回答。博物館にいくきっかけになる。
- ・展示の解説に携帯アプリ等を活用する。興味をもったり、より深く理解できる。
- ・映像展示もあると理解が深まる。（例：製塩展示なら、塩ができる過程の映像など）
- ・展示をみて分からないことを聞けるとよい。

カフェなど飲食に関する機能を設置すれば、もっと明るく開放的な雰囲気となり、利用がしやすくなる。

中高大生

- ・博物館にカフェやキッチンカーなどがあれば、雰囲気も明るくなり、開放的になり、ついでに博物館に入りやすくなる。
- ・一日滞在できるような充実した飲食スペースがあると良い。
- ・カフェを併設し、博物館の展示に関連するメニューをつくり相互に活気をつける。

○「展示内容や講座」などに関する、利用向上のための方策

蒲郡の歴史や自然などの地域に根ざしたことについて、もっと興味を持って学べる場所にするための工夫をしてほしい。

一般公募、利用者、若者議会、中高生

- ・「蒲郡をもっと知る場所」になると良い
- ・例えば「三河木綿」の歴史展示にあわせ、いまでも伝統を引き継いで機織り体験できる場所や購入できる店の紹介があると、実際のまちにつながる。
- ・鎌倉時代よりも昔の痕跡がたどれる蒲郡のまちのスポットを紹介したい。例えば、毎年のNHK大河ドラマと蒲郡の接点を解説すると関心をもってもらえる。
- ・安加比古窯や江戸時代の塩田のほかに、蒲郡の動物・植物なども紹介できるといい。
- ・平坂街道の歴史展示もよかった。地域に根差した博物館の良さをもっとPRする。
- ・三谷祭りについても歴史展示で興味を持ち、実際の祭りへ参加してもらいたい。
- ・竹島の特性を知るガイドツアーなどを企画する。
- ・自分の苗字（蒲郡特融）のルーツを調査する、知りたい。
- ・普通に見えることも、実は面白いことだと伝え方が大事ではないか。鵜殿長照、小島喜八のロープなど、この地域の偉人にまつわる体験もできるといい。

展示するだけでなく、様々な「体験」・「講座」を通じて、楽しく興味や実感をもって学ぶことができると良い。（昔の道具を使う、展示関連のものを作る、昔の衣装を着て記念撮影するなど）

一般公募、利用者、利用者、若者議会、中高生

- ・見たり触ったり体験できるような内容をもっと充実させると人が来る。
- ・可能ならば展示に触れたり、使ったり、当時の使われ方を再現すると興味がわく。
- ・展示物を見るだけでなく、作ってみて発表展示できるような参加型のプログラムもよい。
- ・入った瞬間に面白く感じるディスプレイを工夫する。体験できる展示がよい。
- ・展示だけでなく、体験ができると、記憶に残りやすい。

<博物館でできる具体的な体験>

- ・例えば「貝」の標本展示だけでなく、貝を使って何かつくれると面白い。
- ・織物の体験コーナー等で展示を身近に感じる。徳川美術館の茶室の再現がよかった。
- ・民具等の展示だけでなく、実際の使い方や、使っていた人の話を聞きくと関心がわく。
- ・昔の方のお話を聴く、聴き書きワークショップ。例えば、昔の漁業の様子など。
- ・自由に着られる民族衣装など、体験で身近に感じる。私も孫に着せて撮影してみたい。
- ・リトルワールドのように昔の衣装を着る体験はパールックデートになる。猟師の衣装等。

<フィールドを使った具体的な体験>

- ・ 部屋の中だけじゃなくて、屋外で古墳時代の生活体験ができる面白い。
- ・ 小学校のころ塩田づくりを体験した。機織りなど昔の暮らしの体験してみたい。
- ・ 西浦で地引網体験ができる。センバコギ農具や餅つきの体験など体験して実感する。
- ・ 博物館の古い建物を活かして、明治村のように昔の体験ができる施設にしても面白い。

謎解きゲーム、宝探しゲーム、城下町ごっこ、ミニチュアワールド、博物館バックヤード体験など、今までにないような様々な体験イベントで盛り上げるのはどうか。

利用者、若者議会、中高大生

- ・ 「謎解きゲーム」「宝さがしゲーム」など体験型イベントを企画。季節ごとに内容を変えて継続的に集客する。
- ・ 「城下町ごっこ」で遊ぶ。バイゴマ、食べ物、相撲などの昔体験、お年寄りが活躍できる。
- ・ 古代建築がミニチュアサイズで再現されたミュージアムが面白い。
- ・ 昔のおもちゃ展など、三世代で遊べる楽しい企画。
- ・ 土器復元ワークショップ。
- ・ 博物館学芸員の仕事体験。収蔵品の保全など普段知られていない仕事の裏側など体験。

博物館は美術館の役割を果たしている側面もある。美術の展示機能をより強化していくことが、利用向上につながるのではないか。

一般公募、利用者、若者議会

- ・ 蒲郡市には美術館がなく、博物館が両方の役割を担っている。
- ・ 蒲郡市に美術館はないが、アーティストはたくさんいるので博物館に展示できるとよい。
- ・ 以前、高齢者の個展をやっていたが内輪なイベントになっていて残念だった。
- ・ 博物館のカテゴリーに拘らず、もっと美術・文化として大きな視野で若者の関心を惹くべき。
- ・ 一時期だけ作品を飾るのではなく、季節毎で作品を変えて継続的に人を集める。
- ・ 以前、高齢者の個展をやっていたが内輪なイベントになっていて残念だった。

校外学習などで訪れるなど学校授業と連携し、実物展示や様々な体験によって児童生徒の学びをサポートすることで、興味関心を高め、より深い学びに導くことができる。

一般公募、中高大生

- ・ 学芸員からの、授業につながる解説や、生徒の学びを深める助言は、すごくありがたい。
- ・ 生徒の学びのサポートで学校と博物館がつながり、施設を身近に感じられる。
- ・ 古文書とか展示を利用した学校の授業があると興味が出る。郷土の自慢にもなる。
- ・ 学校の授業で博物館にいったが体験できると面白い。SLの中で写真撮影など楽しめる。
- ・ 蒲郡の歴史展示を観たが教科書では学べない内容。学校の校外学習で行けるといい。
- ・ 社会科の校外学習で訪問する。遺跡など目でみて体験。戦争についてもっと知るべき。
- ・ 学校の社会見学で訪れても見学だけ。もっと体験プログラムを増やすと印象が変わる。
- ・ 学校の授業と関係するような展示があれば興味が出る。
- ・ 科学館と同様に、小中学校の授業に組み込むと博物館ももっと活かせる。

SL機関車D51の展示は、市民の印象に残るシンボルになる。メンテナンスへの参加や、様々な講座や体験に使う、様々な活用の可能性がある。

利用者、利用者、若者議会、中高大生

- ・博物館に展示されているSL機関車D51は、ボランティアによって毎月メンテナンスされていることは知られていない。子どもや若者と一緒に磨く活動ができると面白い。
- ・SL機関車が本当に動かせるなら、ぜひ動かすイベントをやってほしい。
- ・昨年、SL線路にまく砂を「滑らない砂」として受験生に配った、とても面白い取り組みだ。
- ・電車好きを集める。市外までは知られていないので、広くPRする。
- ・SL機関車は、車内で飲食など貸し切りができると面白い（豊橋のおでんしゃ等）。
- ・SL機関車の展示を利用した学校の授業や歴史講座をしたら面白い。蒲郡の自慢にもなる。
- ・博物館には行ったことがないが、SL機関車だけは印象に残っている。
- ・子供が小さいころSL機関車の写生大会をした。

過去の歴史だけでなく、現代や未来に向けたテーマの展示や企画を博物館でやるのも面白い。

若者議会、中高大生

- ・「現代を記録する」講座。街を巡って写真撮り未来に記録を残す活動も面白い。
- ・昔だけじゃなく。「いま」を大事にでき、みんながあつまれること。
- ・スピリチュアル(精神世界)系、ミステリー系など違う分野の連続講話なら関心がある。
- ・人気作家や有名なアーティストの展示があれば見に行きたい。
- ・若者向けの近未来的なテーマの知識を得たり、体験がしてみたい。
- ・駅前にある、昭和感がすごい地下街を生かした企画やイベントが面白そう。
- ・現代アートとのコラボ展示。バンクシーなど若者に人気の作家の展示。民芸やクラフト。

○これからの博物館について

他の施設や機能との複合化・連携を図って、利便性を向上させる。

一般公募、利用者、中高大生

- ・博物館と図書館を一緒にするとよい。博物館で民族展示を見て関心もち、すぐに図書館で文献を調べられる。
- ・博物館と図書館は郷土資料を保管する点では共通点がある。もっと緊密に連携して企画や展示をすればお互いに内容を充実できる。
- ・図書館も博物館も、古い資料や品を膨大に持っている。福祉施設などに貸し出し、回想法などで古い家電や民具などを活用して認知症防止の福祉サービスに活かすとよい。
- ・若者には古くさく見える。未来志向の科学館と施設を統合して刷新するのもよい。

これからの博物館は、近未来の暮らしや子どもの未来に向けた施設にするのもよい。

若者議会

- ・博物館のこれからの考えると、子どもの体験施設（キッズシアターなど）に移行するのも一案。
- ・博物館は過去の展示をしているが、同時に近未来を展示するのも面白い。

- ・ロケットやロボット、仮想現実など近未来の技術を展示すると良い。地域に工科大学もあるし、関連する民間企業にも協力してもらう。

古い文化財の収集と同時に、まだ使える不用品のリサイクルやシェアリング(貸し借り)の拠点にして環境に役立ち、古い民具を認知症予防に活用すれば福祉にも役立つ施設になる可能性がある。

一般公募、利用者

- ・博物館は蒲郡の歴史、伝統、人々の資産の収集や保管において幅広い機能をもつ。
- ・これからのシェアリングエコノミー(インターネットを介して個人間で使っていないモノ・場所・技能などを貸し借りするサービス)の拠点として、様々な資産のリサイクルやシェアリングをしていく。そんななかでお宝鑑定団のように地域資産として保存するもの、値が付く資産としてオークションやリサイクルするなど。単に文化財保存ばかりでなく、幅広い資源活用(リサイクル)の拠点になるとよい。
- ・まだ使える不要品を再利用して、ゴミの削減にも役立てる。
- ・資産価値のあるもの、工芸品になりそうなものを博物館で判断し、保存してもいいし、現金化して運営資金に役立てるのも良い。民間のリサイクル業者と協力して取り組んでもよい。
- ・特にベビーカーや子供服などは、子育て世代や貧困家庭やシングルマザーの助けとなる。
- ・古い家に残された品々を処分する前に、博物館の学芸員に見てもらいその価値を教えてもらう。貴重な文化財の収集にも役立つ。
- ・ケーブルテレビと連携して「お宝鑑定団」風のイベントにしても面白い。
- ・博物館に収蔵する古い道具や家電などを、福祉施設などに貸し出して回想法など認知症予防に活用もできる。